

# 「結城合戦絵詞」を用いて歴史学の基礎を学ぶ

## 一部活動での取組みを中心に

茨城県立水戸第一高等学校 山縣 創明

### 1. 実施学年及び教科・領域

史学会部員 8 名（第 1 学年、男子 7 名・女子 1 名）

### 2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

#### (1) 主題名

「結城合戦絵詞」を用いて歴史学の基礎を学ぶ一部活動での取組みを中心に

#### (2) ねらい

今年度は史学会という部活動での実践を行ってきた。部活動として実践を行うメリットは、生徒の歴史に対する興味・関心が高いことや長期間にわたる実践が可能であることなどがあげられる。また史学会という部活動の特性として、史学科への進学を希望する生徒が多いことが考えられる。

以上のような理由から歴博の所蔵する「結城合戦絵詞」（以下、「絵詞」と略）を題材に取り上げ、史料の扱い方から古文書の解読、論文の検索方法、先行研究の整理方法にいたるまで基本的な歴史学研究の知識・技術を身につけさせることをねらいとして実践を行った。さらに文字史料のみならず絵画史料の史料的価値にも気づかせ、さまざまな史料から複合的に歴史が構築されているということも理解させていきたい。

#### (3) 博物館との関連

史学会部員の関心が高い「中世」、なかでも本校が茨城県に立地していることから比較的親しみやすい「東国」を対象にすることを考えた。その結果、活用する資料として「絵詞」が最適であると判断した。実践には、ほぼ実寸カラーで出力したものを使用した。なお 2 つに分かれた絵の部分を「絵①」「絵②」と区別・省略して表記することとする。

### 3. 指導計画

	指導内容	学習活動	指導上の留意点
導 入	○ 歴史学の研究方法に関するガイダンス	○ 顧問の説明を聞き、歴史学の研究方法について学ぶ。	○ 様々な種類の史料から歴史が構築されていることに気づかせる。
	○ 絵画史料に関するガイダンス	○ 歴史学における絵画史料の重要性について学ぶ。	○ 歴史学の面白さを理解できるように導く。また大学の史学科や茨城資料ネットの活動内容を紹介することで、より具体的にイメージできるようにする。
	○ 室町時代・結城合戦の概説	○ 結城合戦前後の東国の状況について学ぶ。 ※ 部員が全員第 1 学年で日本史 B をまだ履修していないため。	○ 他の絵画史料を提示することで理解を助ける。 ex) 「江戸図屏風」 「洛中洛外図屏風」など

展 開	○「絵詞」の読み込み ・絵①の読み込み	○概説で得た知識をもとに、よく観察し切腹している人物や炎上している建物について予測を立てる。	○必要最小限の指導を心がける。 ○細部までよく観察させる。
	・絵②の読み込み	○前半と同様に輿に乗ろうとしている人物の予測を立てる。	
	・まとめ	○絵①・②から分かったことをまとめる。	○結城合戦の内容に限らず甲冑などの装束、戦いの様式などにも注目させる。
	・古文書学・古文書解説のガイダンス	○古文書の様式や変遷について学ぶ。 ○主だった部首や傍のくずし方を理解する。 ○かな文字のくずし字を理解する。	
	・詞書の解説①	○詞書をいくつかに分担して解説作業を行う。 ○『くずし字用例辞典』を参考に詞書を解説する。 ○顧問の添削をもとに分からない文字のうち頻出のものを抽出する。	○生徒が主体的に活動できるようにフォローに徹する。 ○文字の前後関係から予測を立てられることに気づかせる。 ○歴史的仮名遣いを意識させる。
	・詞書の解説②	○抽出された文字を中心に顧問の指導を受ける。 ※必要に応じて解説①・②の作業を繰り返す。	○詞書に頻出するかな文字 「多」→た、「尔」→に 「連」→れ、「婦」→ふ 「計」→け、「留」→る ○詞書に頻出する部首 「言」「土」「彳」など ○詞書に頻出する漢字 「御」「此」「申」など
・詞書の確認  ・現代語訳	○できる限り解説したうえで翻刻文との最終確認を行う。 ○詞書がどのような内容なのか考える。	○どのようなくずし方をするのか意識しながら確認させる。 ○絵①・②との関連性を考えながら現代語訳を行うよう導く。	
まとめ	○先行研究の文献を収集し、それらの内容を整理する。	○近隣の茨城県立図書館を利用させる。 ○ベースとなる文献の「参考文献」欄をもとに、関連する文献が派生的に収集できることに気づかせる。 ○現段階での研究の到達点や論点を抽出する。 ○学説の変化を理解させる。	

## 4. 実践の概要

### (1) 実践時期

平成 25 年度の後期，火曜・木曜の放課後

### (2) 場所

本校地歴科室

### (3) 導入

夏休み明けの 9 月から本格的な実践に入った。まず歴史学についての基本的なガイダンスを行った。教科書で学ぶ日本史や世界史の内容がどのように作られているか、また歴史を「学ぶ」と「研究する」との違いについての説明を行った。具体例として大学での史学科の概要や東日本大震災で被災した史料の救出に取り組む茨城資料ネットの活動をあげ、歴史学において史料がいかに重要なものであるか、どのように史料を活用して研究が進められているのかについて触れた。史料といっても古文書や古記録のみならず絵画史料や考古学史料などさまざまな種類の史料があることについて触れ、多角的な視点から歴史が構築されていることを説明した。その上で今回の「絵詞」の説明に入った。まず全員 1 年生であり日本史をまだ履修していないことから室町時代の概説を行い、そのなかでの結城合戦の位置づけについて触れた。次に「絵詞」の由来と構成について説明した。

### (4) 展開①

絵①を観察し、そこから何が分かるかを考えさせた。まず描かれている状況・人物・建物などの予測を立てさせ、細部にまで注意して観察するように指導した。

同様に絵②の観察を行い、どのような状況か、また奥に乘ろうとしている人物・武士に守られている人物が誰かなどの予測を立てさせた。

### (5) 展開②

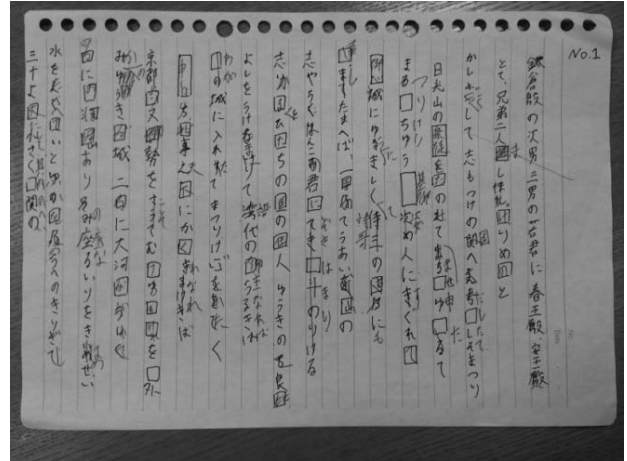
詞書の解読を行う前に、古文書についての大まかなガイダンスを行い、時代により形態が異なることや文字自体の変遷などを取り上げた。その上で主だった部首や旁、かな文字のくずし方を説明した。とくに「絵詞」はかな文字が多いので、詞書に頻出するかな文字をいくつか取り上げ説明した。

詞書は長いので、分担して部員に割り当てた。『くずし字用例辞典』を参考にしながら解読作業を行った。基本的には主体的な作業を意識し、適宜部員同士で相談しながら行わせ、顧問の指導は最小限にとどめた。提出された翻刻文を添削し、間違いが多い文字を抽出し、それらを中心に指導・訂正を行った。このような活動を 2 度繰り返しほぼ全体が翻刻された上で、翻刻文を提示した。翻刻文をみながら全体で最終確認を行い、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し漢字に変換することで内容を理解しやすくした。

以上のような作業を行ったうえで、詞書の現代語訳を行い内容理解に取り組んだ。その際、最初に観察を行った絵①・②との関連性を踏まえながら作業した。詞書には多くの比喩が用いられているので、分かりづらい部分は適宜顧問の助言を行った。また話し言葉を区別するために、「 」で表記し誰の言葉なのか考えさせた。



古文書の解読作業

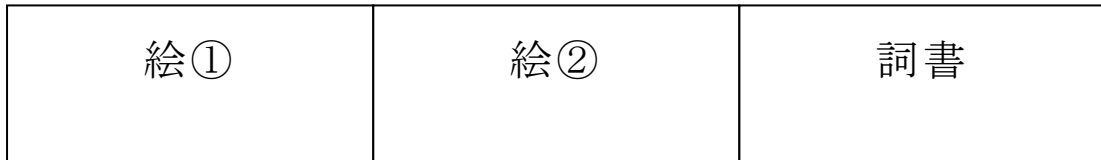


部員による翻刻文（一部抜粋）

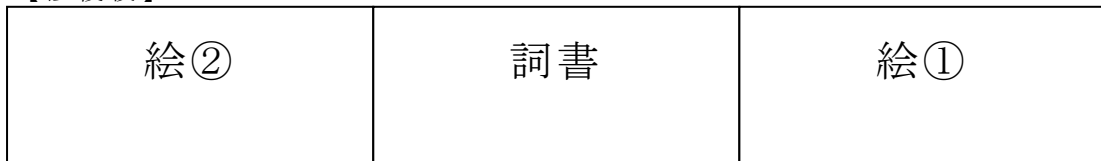
(6) まとめ

詞書と絵①・②との内容を理解したうえで「絵詞」に関する先行研究の整理を行った。先行研究はあまり多くないが、歴博による錯簡の訂正（以下の図参照）を取り上げ、なぜ訂正する必要があったのか、以前の「絵詞」の状態も含めて考えさせた。また先行研究の整理を行うなかで、学説の変化について考えることで何が論点となっているのか、現段階における研究の動向を理解させた。従来は「絵詞」で切腹している人物が結城氏朝とされていたが、人物の直垂の紋や炎上している建物から足利持氏とするのが定説となっている。このように研究の進展により歴史が変わることを生徒たちも「絵詞」を通じて学び取ることができた。

【修復前】



【修復後】



5. 成果と課題

今年度の実践を通して意識したのは、「主体的な生徒の取組み」であった。それは本校の学校生活全般における特長でもあるので生徒たちも十分に認識している。また史学会という部活動の特性上、かなり専門的な実践になったが部員の知識・関心の高さも相俟って充実した実践となった。今後の通常の部活動において今回得た知識や技術をいかしていければと考えている。課題としてはくずし字の解読作業の取り組み方があげられる。史学会という専門的な部活動であるとしても、やはり高校生にそのまま解読させるのは少し難しく、指導者側によるある程度の助言や指導が必要であったと思われる。しかしその「ある程度」の認識が、

生徒の知識や関心で大きく変わってくるので難しい。また今回のような部活動での取組みは特殊なケースであり、やはり通常授業での「絵詞」の活用方法を考えていきたい。以下の6にはその試みともいえる授業実践を掲載した。今後時間をかけて考えていきたい。

## 6. もう一つの実践

今回の実践は部活動を対象とした特殊な事例であったが、今回の実践と前後して「絵詞」を用いた授業実践も試験的に行った。

### (1) 授業内で「結城合戦絵詞」を用いる意義

通常授業で実物史料を用いることにより、歴史的事実を理解しやすくさせる。また当該史料から得られる情報に気づき、絵画史料の重要性を理解する。

具体的には結城合戦が室町時代の東国で起きた反乱であることから、その前後の永享の乱や享徳の乱、さらには戦国時代にまでの知識を連関させる一助とする。また当該期における室町幕府と鎌倉府の関係まで理解しやすくさせる。

### (2) 対象

第2学年文系 日本史選択者

### (3) 地理歴史科（日本史B）学習指導案

普通科	第2学年	教室	指導者	
単元	第5章 武家社会の成長		教科書	詳説 日本史B
	2 幕府の衰退と庶民の台頭		発行所	山川出版社
単元目標	単元目標、指導計画は省略する。			
本時の目標	「結城合戦絵詞」を題材に、永享の乱から結城合戦、享徳の乱、ひいては東国の戦国時代の始まりへの連関を理解することができる。			
準備資料	『新詳日本史』（浜島書店）、『詳録新日本史史料集成』（第一学習社） 「結城合戦絵詞」コピー版（歴博）→以降「絵詞」と省略 『史料で探る茨城の歴史』（山川出版社）、詞書の翻刻プリント（自作プリント）			
	指導内容	学習活動	指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の復習 永享の乱について</li> <li>「絵詞」について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>永享の乱の概要について確認する。</li> <li>絵巻の冒頭部分を見て、切腹をしている人物が誰か考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体的な発言を促す。</li> <li>「絵詞」について説明する。</li> <li>永享の乱と「絵詞」が結びつけるように導く。</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>結城合戦について原因</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>永享の乱後の東国の対立構図を知る。</li> <li>詞書の翻刻文の前半を読み、永享の乱後における持氏の遺児の状況について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>永享の乱後における東国では、関東管領上杉氏を中心となっていたことに気づかせる。</li> <li>持氏の遺児が乱後どのような行動をしたか意識させる。</li> </ul>	
	経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>結城合戦の経過を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>氏朝に持氏の遺児が擁立され挙兵したことに触れる。</li> <li>当時の結城氏がおかれていた状況に触れる。</li> </ul>	

	結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵巻の後半部分を見て、武士たちに守られている子・駕籠に乗せられている子の2名が持氏の遺児であることを理解する。</li> <li>・詞書の翻刻文の後半を読み、持氏の遺児が幕府軍に捕らえられたことや氏朝らが討ち死にしたことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・逃げようとしていることから、結城方が敗れたことに気づかせる。</li> <li>・乱後、持氏の遺児が京都へ送られる途中で殺害されたことに触れる。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・享徳の乱について</li> <li>・東国の戦国時代について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結城合戦後に起きた享徳の乱について知る。</li> <li>・永享の乱から享徳の乱を通じて東国の戦国時代が形成されていったことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成氏と関東管領上杉憲忠が対立する背景に触れる。</li> <li>・関東地方は応仁・文明の乱よりも早い段階で戦国時代に入ったことに触れる。</li> </ul>

#### (4) 授業後のアンケート結果 (1～5の5段階評価の平均値)

※全然理解できなかった(思わない)…1～よく理解できた(強く思う)…5

1. 室町時代における幕府と鎌倉公方との関係について……………2.8
2. 永享の乱～結城合戦～享徳の乱にいたる経緯について……………3.0
3. 絵画史料の重要性について……………4.8
4. 今後も実物史料を授業で活用してほしい……………4.3
5. 感想(抜粋)
  - ・ 絵からたくさんの事が読み取れた。
  - ・ 昔の人が描いた絵にも、きちんと伝えたいことが隠れていて面白かった。
  - ・ 絵巻物から歴史の背景が読み取れることを知った。
  - ・ 実物史料を活用すると印象にも残るので、今後も積極的に取り入れて欲しい。
  - ・ 机上の日本史の知識だけが入試に通用するのではなく、その知識を利用して推測していく力も求められていることがよく分かった。

#### (5) アンケート結果から見てきたこと

授業における実物史料の活用法については、試験的に行ったという事もあり、婉曲な表現がなされている詞書の提示の仕方など、多くの課題が見つかった。しかしながら生徒が実物史料から歴史に興味・関心をもち授業に積極的になったことは否定し得ない事実であるので、今後さらに有効的な活用方法について考えていき授業にいかしていきたい。

#### <参考文献>

- 佐藤進一 『古文書学入門』 法政大学出版局 1971年
- 児玉幸多編 『くずし字用例辞典』 東京堂出版 1981年
- 小松茂美編 『続日本絵巻大成 17 前九年合戦絵詞・平治物語絵巻・結城合戦絵詞』 中央公論社 1983年
- 小松茂美編 『前九年合戦絵詞・平治物語絵巻・結城合戦絵詞』 中央公論社 1992年
- 真保亨・井原今朝男 「新収蔵『結城合戦絵詞』をめぐって」 『歴博』第92号 国立歴史民俗博物館 1999年
- 大田原市那須与一伝承館 『「結城戦場物語絵巻」の世界と那須の戦国』 2012年